

SCIENCE FOR RESILIENCE



防災科研

「日本学術会議 in つくば」公開講演会
持続的かつレジリエントな道筋への移行
趣旨説明

国立研究開発法人
防災科学技術研究所
林 春男

公開講演会タイトルはどこから来たのか

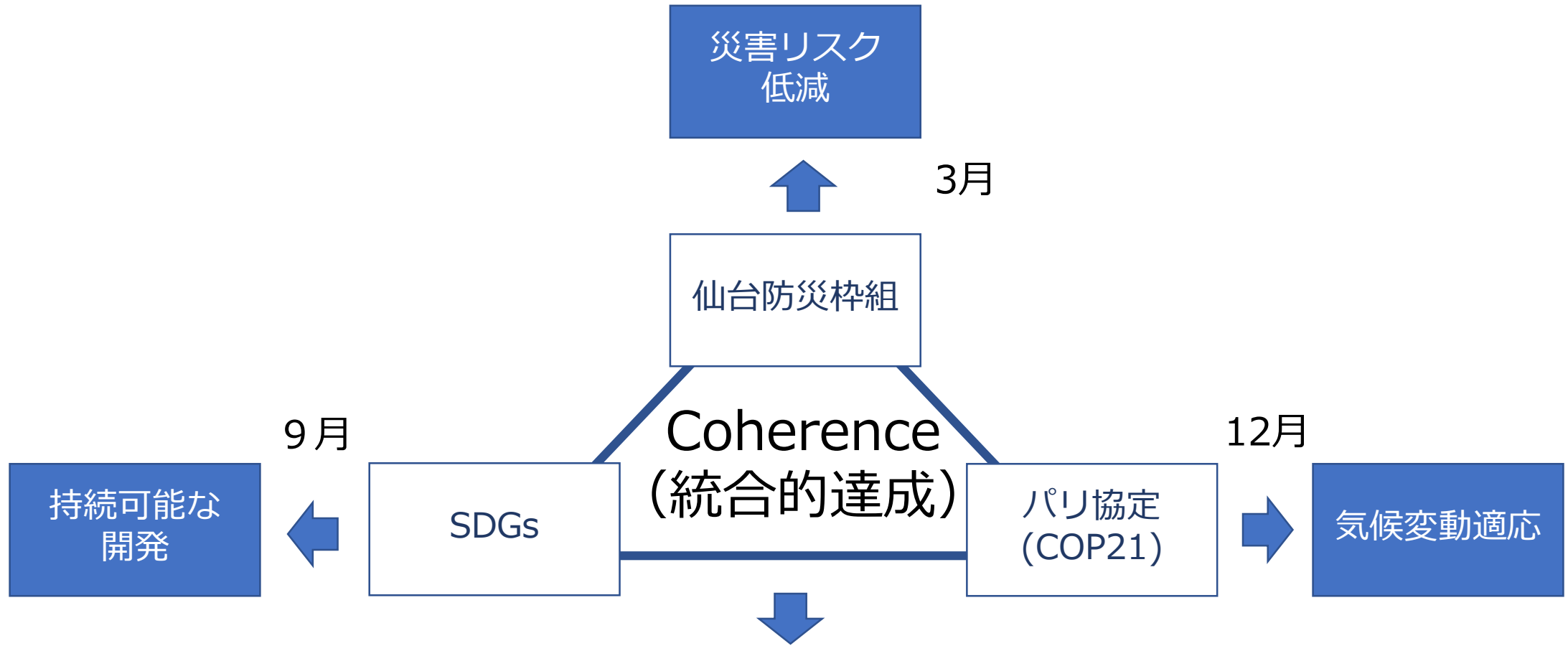
「我々は、世界を**持続的かつレジリエントな道筋に移行**させるために緊急に必要な、大胆かつ変革的な手段をとることを決意している。」

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の前文

“We are determined to take the bold and transformative steps which are urgently needed to **shift the world onto a sustainable and resilient path.**”

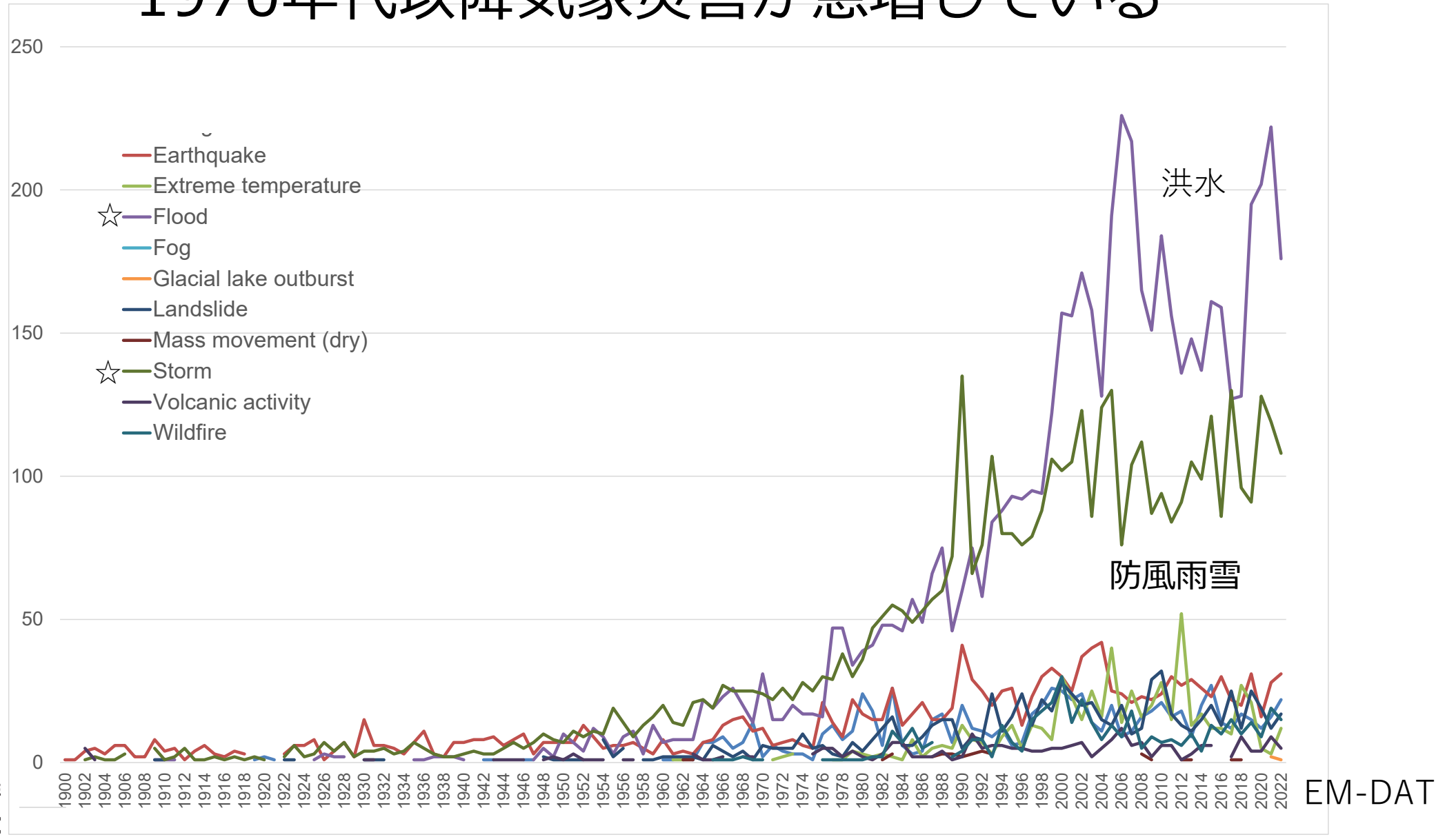
“Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development” Preamble

2015年に国連が公表した3つのアジェンダ

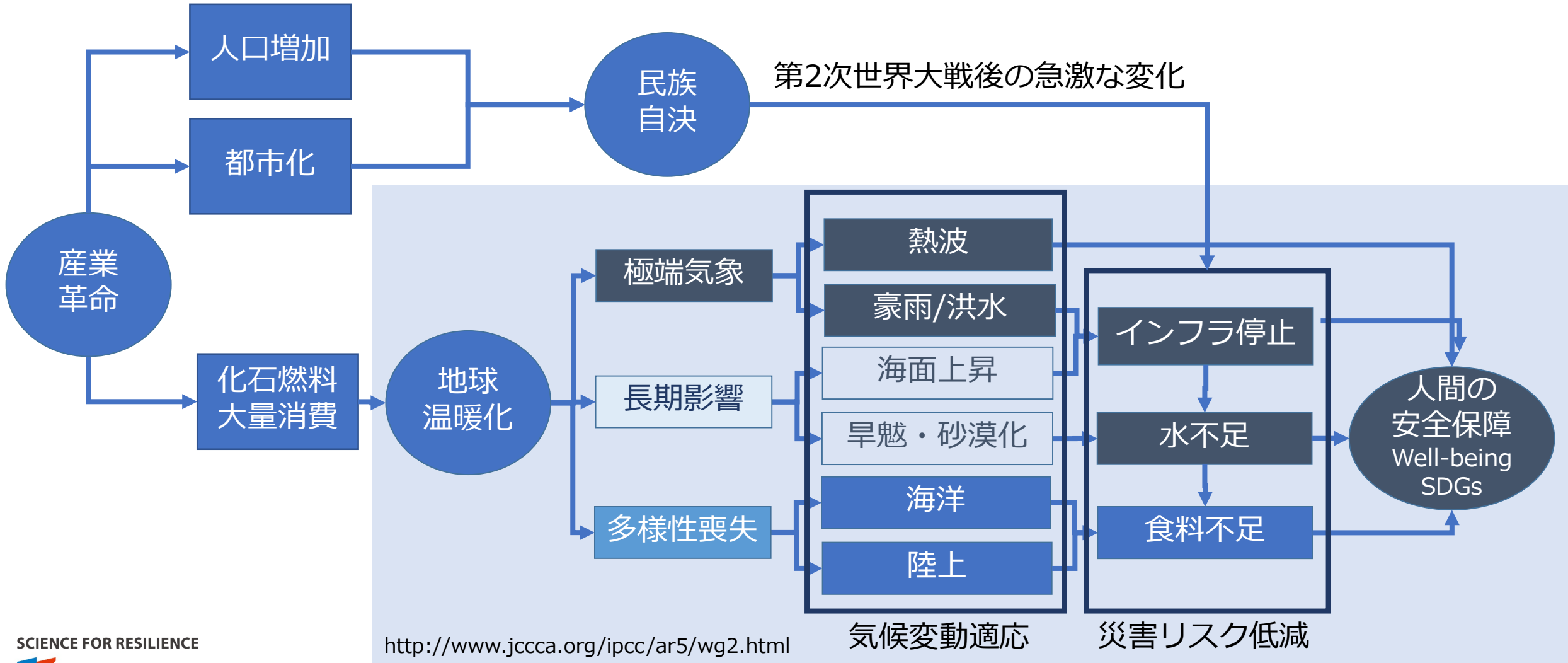


- Coherenceの実現にはレジリエンス (Resilience) が不可欠
- 相互に関連しあったリスク (Systemic Risk) の理解には科学技術が大きい役割

1970年代以降気象災害が急増している

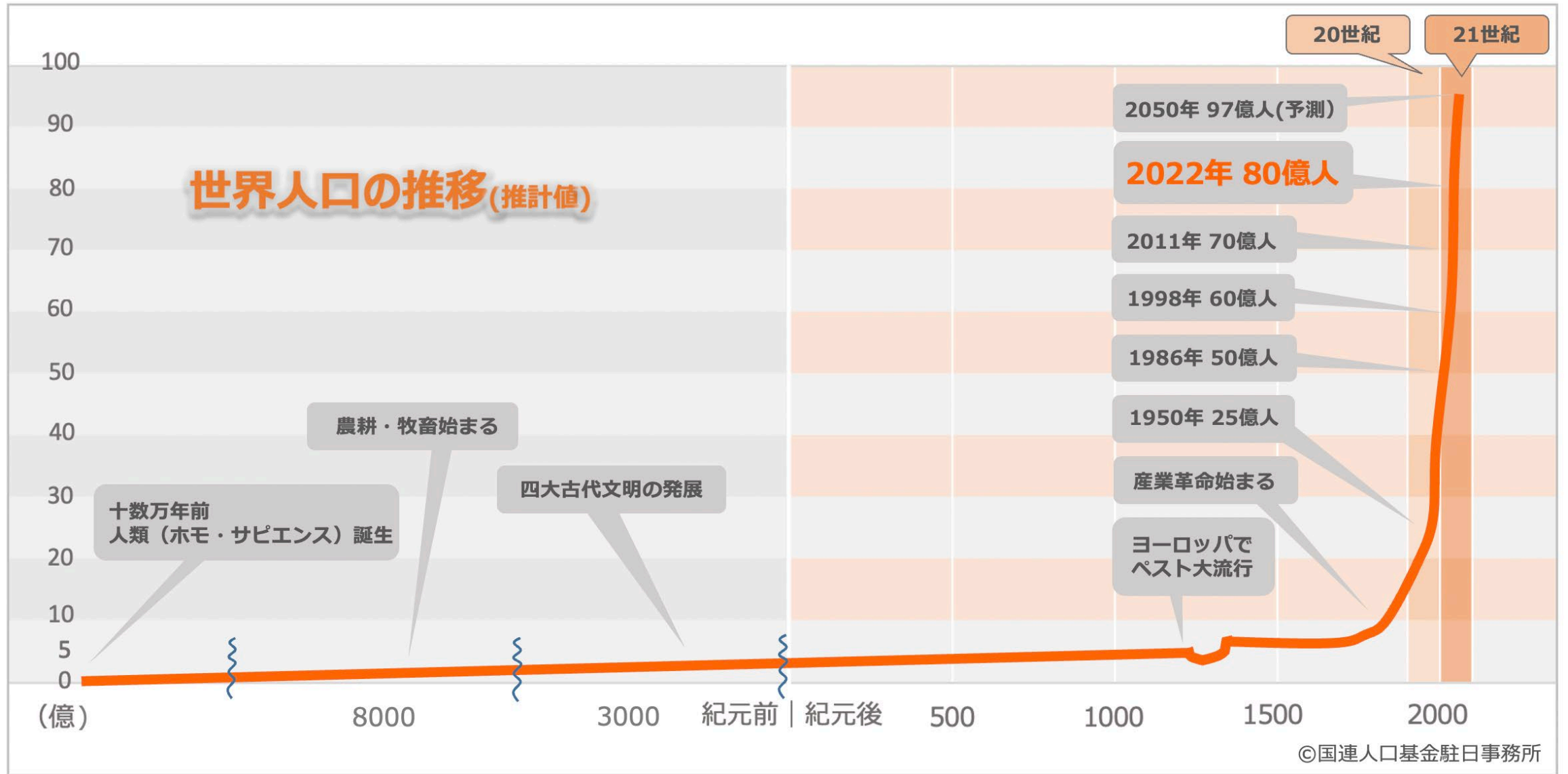


相互に関連しあうリスク (Systemic Risk) 地球温暖化がもたらすさまざまなリスク

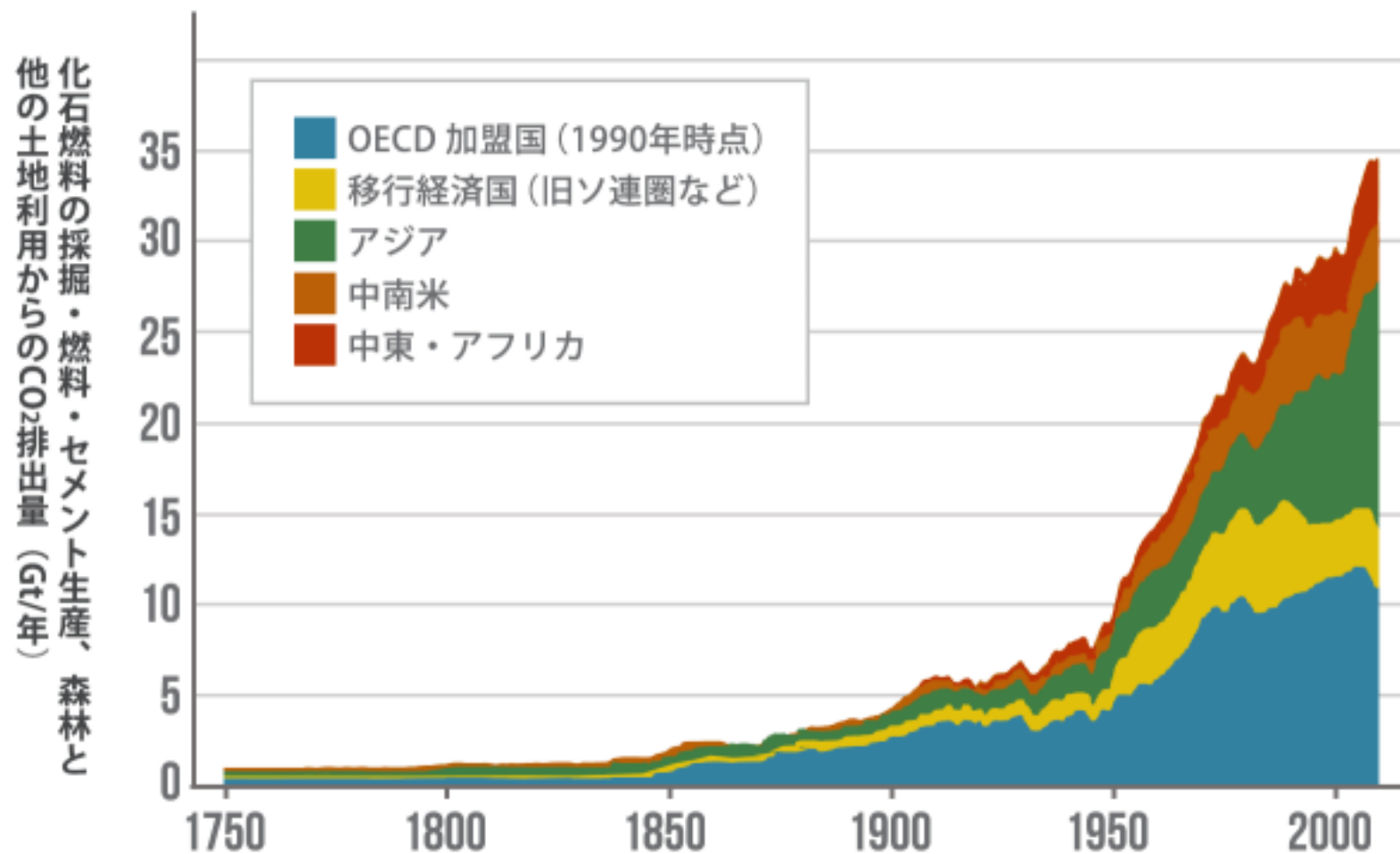


<http://www.jccca.org/ipcc/ar5/wg2.html>

産業革命を契機とする人口増加



1950年を契機にCO2の排出量も格段に増えている



世界平均気温（年平均）の推移

b) 世界平均気温（年平均）の変化

観測値並びに人為・自然起源両方の要因を考慮した推定値 及び

自然起源の要因のみを考慮した推定値（いずれも 1850～2020

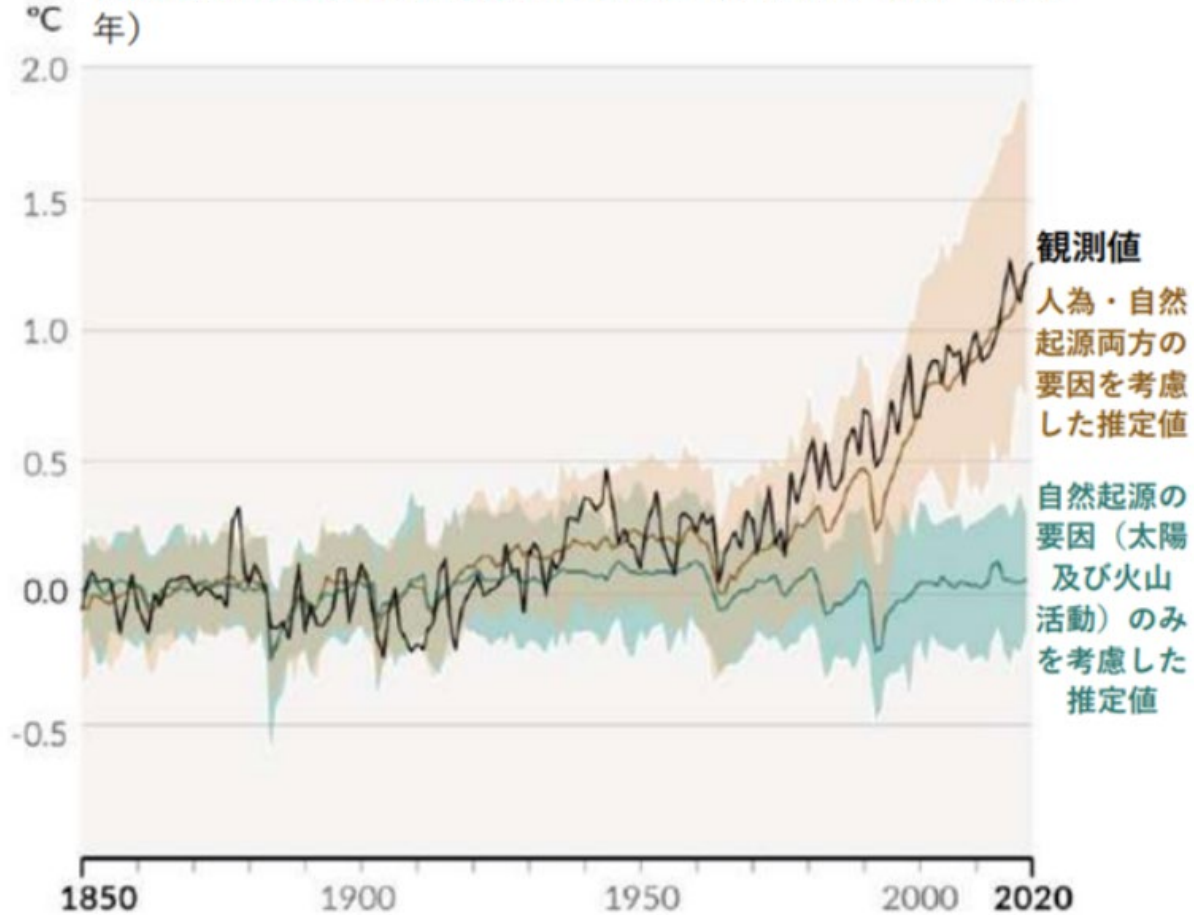


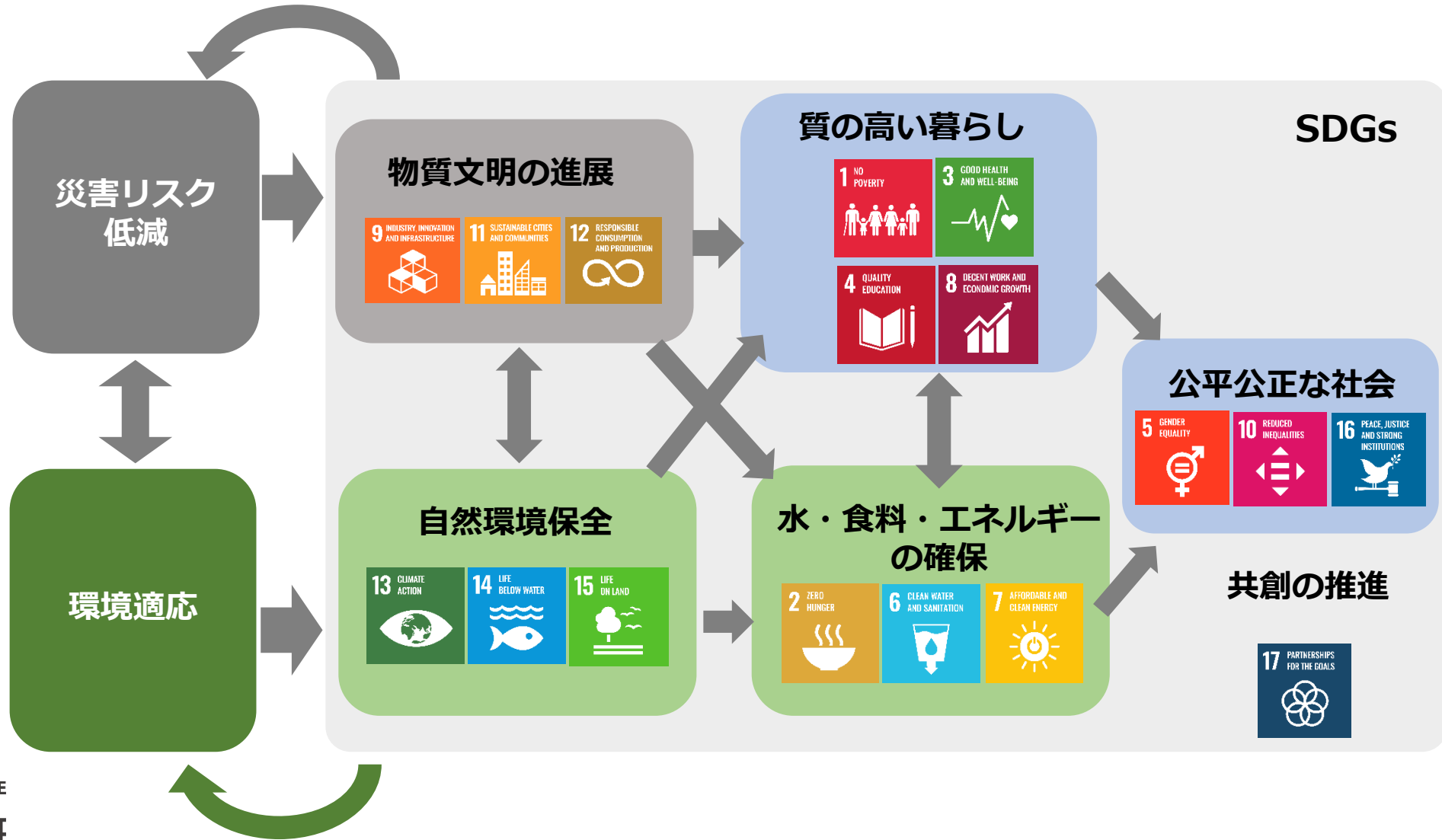
図9: 世界平均気温(年平均)の変化(1850～2020年)

出典: 気象庁「IPCC 第6次評価報告書 第1作業部会報告書」(2021)

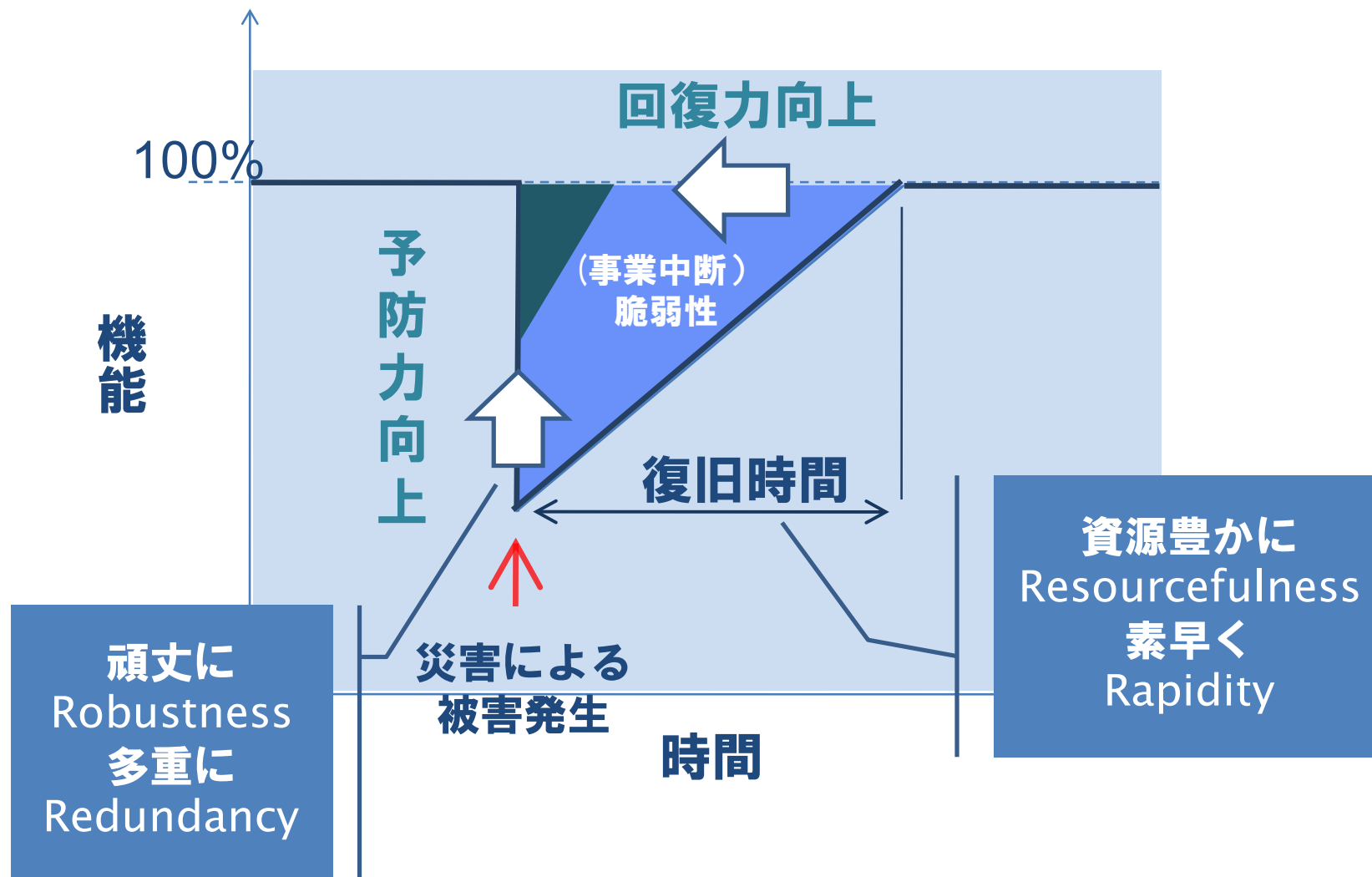
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/IPCC_AR6_WG1_SPM_JP_20210901.pdf, p.6

<https://shizen-hatch.net/2021/11/09/population-change/>

DDR, CCA, & SDGsの調和的な推進のための知の統合 -システムミックリスク・グローバルリスク



災害レジリエンスの向上

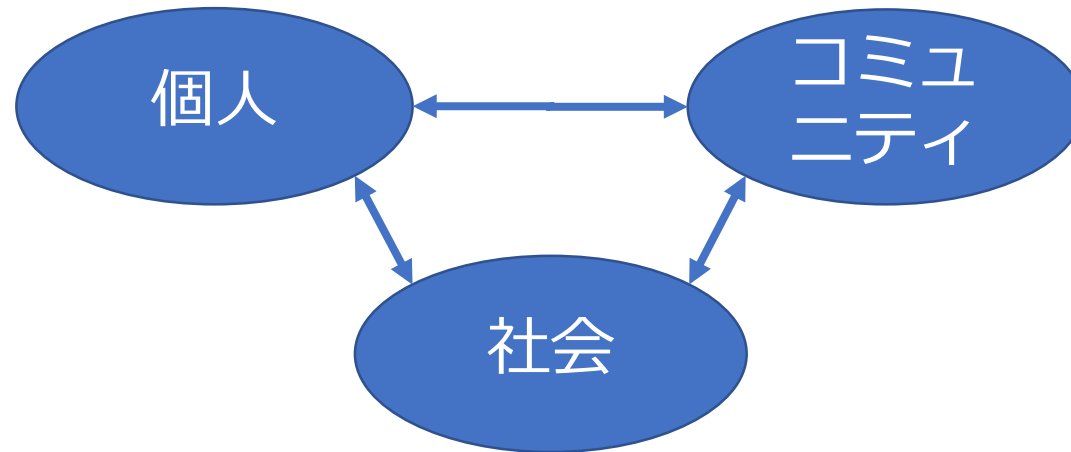


All for One, One for All

レジリエンスは個人、コミュニティ、社会という
3つのレベルで成立し、相互に関連する

不可分な存在としての人間
自助

対人的なつながりを持つ人々の集まり
家族・親戚・**企業**・地域**コミュニティ**・
属性**コミュニティ**・財産**コミュニティ**等
互助・共助



法制度や税によって成り立つ非人格的な存在
国家・**都市**・インフラストラクチャ・構造物
公助

プログラム

司会進行：三枝 信子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所 地球システム領域 領域長）

開会挨拶：梶田 隆章（日本学術会議会長）

主催挨拶および趣旨説明：林 春男（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

基調講演：三村 信男（茨城大学地球・地域環境共創機構特命教授）

話題提供者

	環境・開発	防災・減災
市民活動	島田 幸子 (関東地方ESD活動支援センター)	澤野 次郎 (災害救援ボランティア推進委員会委員長)
行政の取組	向後 昌弘 (佐倉市企画政策部長)	藤光 智香 (つくば市政策イノベーション部長)
民間企業の取組	安部 大介 (株式会社ウェザーニューズ常務 執行役員・リスク管理主責任者)	相澤 益男 (日本防災産業会議会長)
学術分野の取組	日下 博幸 (筑波大学計算科学研究センター教授)	岩波 越 (防災科学技術研究所研究主監)

パネルディスカッション

モデレータ：小池 俊雄（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）センター長、東京大学 名誉教授、政策研究大学院大学 連携教授）

閉会挨拶：森口 祐一（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所・理事、東京大学名誉教授）

生きる、を支える科学技術

SCIENCE FOR RESILIENCE



防災科研